

# 入野小学校 校長室だより

2015.7.9(木) No.14 文責：芝

## 人文字が育むことは…

昔の話、それもお説教じみた話から始めますので申し訳ないのですが、少しお付き合いください。

私が小学校高学年の頃ですから、もう50年ほど前のことです。私が住んでいた地域だけのことかもしれませんが、「世のため人のため」という言葉が小学生だった私でも、割によく聞く言葉でした。だれが、どのような場面で使っていたのか記憶にないのが残念ですが、その頃は「私のためではない・みんなのためになる行為」を見たり聞いたりする機会が多かったのかなと思ったりもします。ですが、「昔は良かった」という話を続けると未来が見えませんので、ここで終わりにします。ただ、先週土曜日のライオンズクラブによる入野駅での七夕祭りのように「地域の人に喜んでほしい・地域を元気にしたい」という願いを込めた活動を見聞きする機会は、この黒潮町を含めた幡多地区には多いと思います。未来に向け、希望と力が湧く話題です。

-----  
前振りの話が長くなりました。

今朝の「なかよし朝会」も見ている教職員まで楽しくなる内容でした。今日の内容は「なかよし班での人文字作り」。ひらがなの「い」から始まり、「の」→「な」。そして、漢字の



「木」→「田」と続けました。左下の写真は、見てお分かりいただけと思いますが、「の」の完成間近の様子。この班の「の」は見事に曲線部分を作っていますね。

班員がそれぞれ勝手に動いたのでは文字になりませんから、上級生のがんばりとみんなの協力がポイント。班によっては横になった人をズルズル引っ張って修正するという場面もあるなど、とても楽しそうでした。



今日の「人文字作り」も児童会執行部の発案によるものです。「こおりオニ」のように、いつもみんなが喜び、笑顔になる定番メニューだけでなく、時々今回のような楽しい企画を出してきます。いつも感心させられるのは、執行部の子どもたちの発想の中には、いつも「なかよし班の協力」が意識されていることです。「人文字作り」は内容そのものに班の協力が必要です。ですが、これまでの内容によっては「班の協力の必要は薄い」ものもありました。そんな時には「必ず班全員で手をつないで移動」というような条件が加わっていました。本当に「なかよし朝会」という名前にふさわしいものにしようという気持ちが感じられます。たいしたものです。

私が子どもの頃に聞いた「世のため人のため」、この頃の「地域を元気にしたい」、この子どもたちが大人になった時には、どんな言葉が使われるのでしょうか。「なかよし朝会」のような、みんなが協力する経験を通して、みんなが喜ぶことに力を貸せるような大人に育ててほしいという願いを感じながら、子どもたちの作る人文字を眺めたことでした。